

# 保健体育科 学習指導案

日 時 平成30年11月8日(木) 6校時

学 級 3年3組女子18名・4組女子18名計36名

場 所 体育館

授業者 菅原 優香

## 1 単元名 E 球技 「ハンドボール」

### 2 単元について

#### (1) 教材観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立てて、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

ハンドボールは、パスやシュートで攻めたり、作戦に応じたディフェンスラインで守ったりしながら勝敗を争うところに楽しさがある。また、スピード感あふれるパスやシュートなどは、他の競技には見られない醍醐味を味わうことができる。また、個人の得意な部分を生かした作戦を立てることができ、過程や結果に応じて達成感を味わうこともできる。攻防の切り替えが絶えず続き、運動量を確保することができるので、運動した充実感を十分に味わえるスポーツとも言える。

#### (2) 生徒観

本校の保健体育科で目指す生徒像を以下のとおりである。

- ①保健や体育は学習の場が多様なので、学習規律や行動様式をしっかり身につける生徒
  - ②仲間と協力しながら粘り強く取り組む生徒
  - ③自分で明確に学習課題を持ち学習に積極的に取り組もうとする生徒
  - ④1単位時間の中に話し合い活動を設けることにより伝える→わかる、できるにつなげられる生徒
- 3年3・4組の生徒は、明るく積極的で保健体育の授業に前向きに取り組んでいる。教師側の発問にも積極的に答える生徒が多い。1年生からチームごとの学び合いの場を設定してきたが、チームを固定せずに行ってきたため、その場限りの作戦や話し合いになってしまい深めることができなかった。

そこで本単元では、チームを固定し話し合いの内容が次の試合へとつながるようにしていきたいと考えている。

### 3 単元の指導目標および評価基準

#### (1) 指導目標

ア 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

- ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。

イ 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

ウ 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保すること。

## (2) 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	球技の特性に応じた、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	技能の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。

## 4 単元の指導計画・評価計画

時間	学習内容	関	思	技	知	評価基準
1	・運動の特性、学習の進め方について (ガイダンス)	○			◎	・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。
2 3	・復習と攻めについて (クロス, 平行, 速攻など)		○	◎		・ゴール型では、ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。
4 5 ⑥ 本時 7	・チーム決め ・チーム毎にフォーメーションを作る		◎	○		・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。
8 9	・ディフェンスの検討	○		◎		・自己の責任を果たそうとしている。 ・作戦などについての話し合い貢献しようとしている。

10 11 12	チーム練習, ミニゲーム (チームに合うディフェンスを 考える)		◎	○		・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けている。
13 14	トーナメント戦		◎	○		・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・運動観察の方法について、理解してこと言ったり書き出したりしている。 ・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。
15 16	まとめ	○	◎			・球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 ・フェアなプレイ大切にしようとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。

## 5 本時の指導

### (1) 本時目標

自己のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる。

### (2) 指導の構想

「思考力・判断力・表現力」を育てるための言語活動のポイント

1	前時までの内容からどうやって空間を作り出すか検討してみる。	【聞く】【話す】
2	実践した結果を振り返り自分の考えをまとめ、発表する。	【聞く】【書く】

### (3) 本時の評価基準

観点	B おおむね満足できる	努力を要すると判断された生徒への手立て
思考・判断	自己のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる	具体的な作戦や戦術の例を挙げて、実践できそうなイメージを作るとともに、友達のよい動きを参考にしながら動いてみるよう声かけをする。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点(方法)
導入 15分	1 準備運動 (体操・補強)  2 学習課題の把握	1 体操・挨拶 ※教科リーダーが進める 全員で声を出し、元気よく行う。 W-UP ・クロスプレー ・オープンプレー ・速攻  2 前時までに各チームで考えたフォーメーションを振り返り本時の内容を確認する。	○自己の体調に応じて動いたり、練習場所の安全を確認して行えたりするように声かけをする。  ○1人の考えにならないようにする	
チームオリジナルのフォーメーションを作ろう				
展開 25分 見通し  課題 解決	3 空間を作り出す動きの確認  4 空間を作り出す動きの実践①	3 前時にチームで考えたフォーメーションを実践してみる  4 練習したフォーメーションを相手チームで試してみる	○練習がスムーズに進めように巡回して声をかける  ○実際の場面で試させる ○フォーメーションによる攻撃になるよう意識させる。	
言語活動① 前時までの内容からどうやって空間を作り出すか検討してみる				
	5 空間を作り出す動きについての話し合い  6 空間を作り出す動きの実践②	5 自分たちで考えたフォーメーションが有効だったかを話し合う  6 修正したフォーメーションを相手チームで試してみる	○何がよかったのか、何がダメだったのかをチームで出し合えるように声をかける  ○お互い声をかけあえるようにながす	5 【思考・判断】 自己のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる
終末 10分 振り返り	7 本時の学習を振り返る (1) 自己評価  (2) 発表	7 (1) 実践した結果を踏まえて自己評価を行う  (2) チーム内に発表する	○努力を要する生徒への具体的な声かけ(個別)	
言語活動② 実践した結果を振り返り自分の考えをまとめ、発表する				

